

# 河川維持管理技術者による「護岸損傷の応急復旧対策」に関する助言

- 大場川において、低水護岸の護岸損傷が確認された。
- 河川維持管理技術者、事務所・出張所職員及び維持工事業者とともに合同現地踏査を実施した。
- 出水期に備えて原因究明、対策検討に必要となる詳細調査（潜水調査、測量調査等）や応急復旧対策について河川維持管理技術者の助言により迅速・適切に対応した。

## 1. 現地踏査

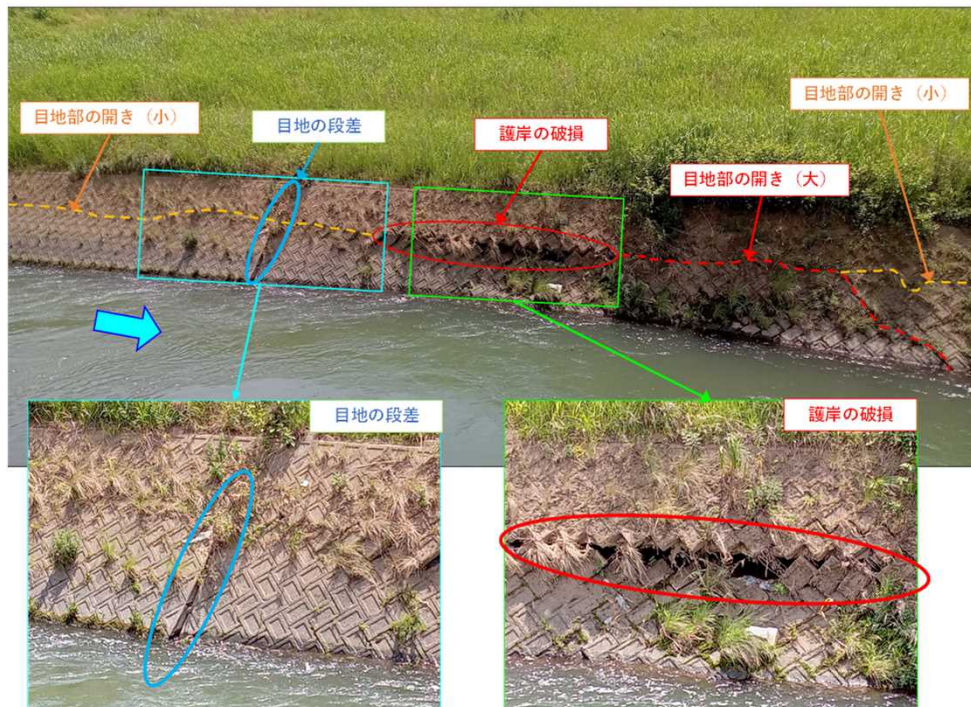
- ・被災箇所は、湾曲部の外岸側であり外岸では流れが集中し流速が速い。被災箇所の上流側には瀬が存在し、湾曲部外岸側に流れが偏る状況であった。
- ・潜水調査より、被災箇所より下流部では、護岸の基礎が露出しており洗堀も顕著であった。

## 2. 発生原因と発生メカニズム

- ・湾曲部の外岸水衝部であり、かつ瀬の下流であることから、相対的な流速の変化（高速流）に伴い局所洗堀が発生。
- ・洗堀が護岸基礎以下まで進行し、その後護岸背面土が吸い出され、護岸が損傷したことが考えられる。

## 3. 応急対策の検討

- ・応急復旧工については、水理計算・安定照査を実施し、短期間で施工可能な「袋詰め玉石工」を採用した。



## 河川維持管理技術者との 合同現地調査状況



## 応急復旧対策実施後



## 損傷発生メカニズム（原因分析）

